

## ま え が き

小 松 醇 郎

日本数学会は昭和50年(1975)6月に、昭和52年の日本数学会・日本物理学会創立100周年に際して記念事業を行なうための準備会議を開いた。この第1回会議出席者は、田村一郎理事長、彌永昌吉、河田敬義、伊藤清三、小松醇郎の5名であった。物理学会の100周年記念事業実行委員会はずでに1年前から発足していた。その物理側の議事録を参考にして、数学側の行事予定を次のようにする方針を定め、実行委員長は小松醇郎に依頼するということになった。

1. 記念式典、記念特別講演
2. 記念パーティー
3. 展示会
4. 雑誌‘数学’の特集号
5. Journalの特別記事
6. 日本の数学100年史の出版

また実行委員会委員としては、上記のほか秋月康夫、佐々木重夫、木村俊房、一松 信の4名が加わるようになった。なお後になって三村征雄、中井喜和、及川広太郎が加わるようになった。

昭和50年7月に数学・物理両実行委員会の第1回合同会議が開かれた。そこで記念式典は1977年10月8日、9日、10日とし、式典、記念パーティー、それに続く記念年会、展示会を数学物理合同で行なうことが定まり、式典会場・パーティー

会場・年会会場などをどこにするかの問題が話し合われた。

それ以来、昭和52年(1977)8月までに、16回の実行委員会、多くの小委員会を開き、また物理の実行委員との合同実行委員会も6回開いた。記念行事等の担当委員を次のごとく分担し、各委員の精力的な活動により10月8日からの記念行事を予定通り行なうことができた。

式典企画委員 河田敬義

展 示 委 員 三村征雄・伊藤清三

外人関係委員 彌永昌吉・河田敬義・  
田村一郎・木村俊房

雑誌数学特集号委員

木村俊房(初め)、及川広太郎、  
一松 信

記念年会委員 及川広太郎

寄 附 委 員 小松醇郎・河田敬義・  
佐々木重夫

式典日等司会 中井喜和

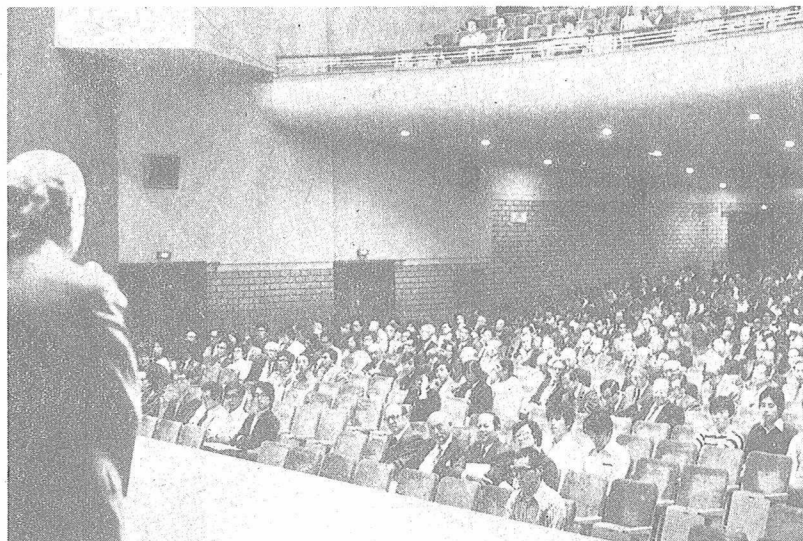
資 料 委 員 木村俊房・小松醇郎

また‘日本の数学100年史’は日本数学会後援、編集委員会編とし岩波書店より出版することになった。実行委員会是小松醇郎・三村征雄・彌永昌吉・河田敬義・佐々木重夫・奥川光太郎・一松信・木村俊房・本田欣哉にその編集を委嘱した。



## 昼 餐 会

立って挨拶するのは、茅 誠司氏、  
その向って左は、Sosnowski 氏、  
茅氏の向って右は、順に  
Chandrasekharan 夫人、  
Chandrasekharan 氏、  
Bing 夫人、Bing 氏、  
吉田耕作氏、和達清夫氏  
彌永昌吉氏、木村俊房氏。



会場風景

10月8日の行事は次の順序で行なわれた。

昼餐会 11時30分—13時20分  
 於 学士会館

記念式典 13時30分—15時  
 於 共立女子学園講堂

開会の辞 式典委員長 茅 誠司  
 (日本物理学会)

両学会報告 日本数学会理事長 木村俊房  
 日本物理学会会長 宮原将平

来賓祝辞 文部大臣 海部俊樹  
 日本学士院長 和達清夫  
 日本学術会議会長 越智勇一  
 IMU 前会長  
 Komaravolu Chandrasekharan

IUPAP 会長

Clifford Butler, F. R. S.

祝電被露

閉会の辞 式典副委員長 吉田耕作  
 (日本数学会)

記念講演会 15時15分—17時

於 共立女子学園講堂

開会の辞 木村俊房  
 講演 ‘日本の数学の発展’(45分)

……………彌永昌吉

〈休憩〉 (15分)

‘物理学とは何だろうか’(45分)

……………朝永振一郎

閉会の辞 宮原将平

記念懇親会 18時—20時 於 上野精養軒



夜のパーティー

一番手前こちら向きは、  
 Neuman 氏、それと向かい合  
 って広中平祐氏。

10月9日、10日、11日は共立学園講堂で、記念特別講演会が催されたが、数学の部は9日の午前だけであって、次の講演・行事があった。

M. F. Atiyah, Geometry and Physics

(座長：K. Chandrasekharan)

R. Thom, Limit sets of leaves of analytic foliations with singularities.

(座長：B. H. Neumann)

次いで11時45分より、日本数学会のために献身的に努力された彌永昌吉氏に対する感謝状および記念品贈呈式が行なわれた。

10月9日午後から12日まで、東京理科大学において数学会・物理学会合同の記念年會が、盛會裡に行なわれた。

以上が創立100周年記念行事の経過であるが、この行事の精しい記録を以下に掲げる。

またこの機会に過去1世紀の、数学会発展の経過を辿り、将来の発展への一里塚とするべく、ジャーナル・雑誌数物記事・雑誌数学・その他刊行物の小史および略年表を記録しておくことにしたのである。

## 感謝状

彌永昌吉殿

日本数学会は創立百周年記念事業を行うにあたり、日本数学会の今日の発展のために特に御尽力くださった彌永昌吉先生に感謝の意を表わしたく存じます。

彌永先生は戦後間もなく、日本数学物理学会が日本数学会と日本物理学会との二つに分れるに当り、数学グループの中心となつて日本数学会の組織と規約を定め以来長く理事長をつとめました。そして日本数学会を隆盛に導くため、学問的にも経済的にもその運営に苦心なされ、ついに今日の輝やかしい学会にまで育成されました。戦後直ちに先生によつて企画され、幾多の努力の末、刊行された数学辞典は学問的に高く評価され、本年にはその英訳も刊行されるにいたりました。その印税は日本数学会の財政に大きな援けになっています。これらは会員多数の努力もさることながら、先生の見識と実行力とに負うこと大であります。さらに一九五五年に先生の努力によつて開催された代数的整教論国際会議は、日本数学界の国際協力の出発点となりました。

日本数学会はここに厚く御礼の言葉を述べ、感謝状とともにささやかな記念品を贈呈致します。

昭和五十二年十月九日

社団法人 日本数学会

理事長 木村俊房